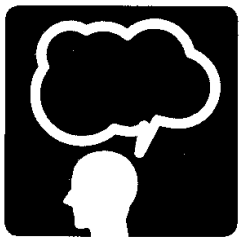
介護ビジョン　2010年2月号

介護マネジメント塾

経営（継栄）のツボ

理念



転期に立つ経営者の資質の鍛え方㊾

眼高手低（がんこうしゅてい）

早川浩士
有限会社ハヤカワプランニング代表取締役

はやかわ・ひろし
経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『早川浩士の常在学場』（筒井書房）、『介護人財創造塾』（筒井書房）、「介護保険改正に勝つ！経営」（年友企画）、」データで徹底分析　介護事業の最新動向と経営展望」（日本医療企画）など。
http://www.hayakawa-planning.com
ブログ：http://ameblo.jp/hayakawa-planning/

「手を抜かない！」

開設から9カ月が経過したユニット特養を見学したときのこと。

10カ所の浴室のすべてに木製の浴槽が備えつけられていたのだが、どこを見ても念入りに掃除が行われていたことに驚かされた。

たまたま、前週、前々週と同じタイプの浴槽を見続けていたからなのであろう、その違いをひと目で感じとれるくらいだった（それほど他がひどすぎた）ので、そのことを施設長に聞いてみた。

入居者にとって落ち着いて入浴のできる木の浴槽も、その手入れには少し手間がかかる。

当初は、各ユニットの職員が分担して浴槽の掃除をするように決めていたのだが、しばらくして他の業務に支障を来してしまうなどから見直しを求められたという。

木の浴槽は、お湯を抜いた後、ヘチマ、柔らかいスポンジ等を使って、湯船についた〝ぬめり〟をよく水洗いしなければならない。

タワシ類を使うと木肌に傷がついて汚れがつきやすくなることから使用は控えざるを得ない。

施設長は、眼高手低（理想だけ高くて、実行力が伴わないこと。批判だけはすごいが、創作力はそれほどでもない）でも、拱手傍観（何もせず手をこまねいて傍で見ていること。中国の礼の仕方のことで、両手を組み合わせて胸元で上下することをいう）でもなく、浴室の清掃のみを担当するための障害者雇用に踏み切ったという。

周囲からは、冒険であるともいわれた取り組みだったというが、彼らを通して学んだこと。

それは、浴槽の手入れに〝手を抜かない！〟ことだった。

「〝て〟と〝て〟と5つの種」

仕事ぶりを見て感じたのは、与えられたことに対して〝手を抜かない！〟〝手を緩めない！〟という姿勢の徹底ぶり。

ともすれば、〝手を抜く！〟〝手を緩める！〟といった安易さに流れかねない職員にとって、手を休めることなく黙々と汗を流しながら浴室の掃除を行っている仲間がともに働いているということは、良い刺激になるに違いない。

手を替え品を替え、あらん限り手を回して得手勝手に振る舞う手練手管な人が幅を利かしてはいないだろうか。

手前味噌で飾ることのない施設長が下した一手、それはあらゆる手を尽くそうと心がける不断の努力の蓄積に拠るものといえる。

手のかかる職員がいる。
手を焼く職員がいる。
手を煩わせる職員がいる。
手に余る職員がいる。
手に負えない職員もいる。

そんな職員の手も借りなければ、業務は滞ってしまう。

〝て〟と〝て〟と5つの種をスローガンに掲げて取り組んでいるところがある。

一　つなぎあう手
　　あなたと共に
二　あたたかな手
　　信頼と共に
三　ささえあう手
　　地域と共に
四　すくう手
　　いのちと共に
五　むすびあう手
　　仲間と共に

いつも心のなかで手のひらを合わせるような気持ちを育むよう、自らの資質の鍛え方に〝手を抜かない！〟〝手を緩めない！〟ことを大切にしたい。特にトップは。